屏風ケ浦の名勝及び天然記念物指定と銚子ジオパーク

岡　崎　浩　子

屏風ケ浦は、高さ約20～60m、長さ約10kmの海食崖です（写真１）。ここは、平行に積み重なる地層の様子がよくわかることからしばしば教科書にも載る、地学的には大変ポピュラーな場所です。また、江戸時代の赤松宗旦の『利根川図志』にも描かれているように、古くからの景勝地でもあります。

屏風ケ浦では、銚子市により平成25年～27年度に国の名勝指定に向けての総合調査が行われました。中央博物館関係者としては地質分野を岡崎浩子、地形分野を八木令子・小田島高之・吉村光敏が担当しました。調査の結果として、屏風ケ浦を構成している地層の年代、地形の成り立ちやその変化などを明らかにしました。また、生物系では大場達之・斎木健一、天野誠、御巫由紀が、歴史系では内田龍哉・木村修・斎木勝が調査を行い、平成28年３月１日に名勝及び天然記念物として国の指定を受けました。銚子地域ではこの他にも「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」が平成14年３月19日に国指定天然記念物となっています。この指定調査にも高橋直樹、岡崎浩子が参加しています。このように銚子地域は千葉県の自然や歴史を代表する重要な地域であり、指定にあたっては中央博物館の調査が生かされています。

銚子地域の地形地質の特徴は、半島のように飛び出した地形を作る屏風ケ浦（新生代の地層）とその先端にある中生代（ジュラ紀と白亜紀）の地層です。これは広く見ると関東平野中央部の地下の地質がその東端の銚子地域で陸上に現れていることになります。ここは古い時代の地層から新しい時代の地層までをコンパクトに見ることができ、まさに「大地の公園＝ジオパーク」にふさわしい場所となっています。ジオパークは地域の大地や生態系、それに根付く地域文化を教育財産とし、その保全と活用をめざすユネスコ事業で、世界で38カ国140地域が認定されています（2018年４月現在）。日本では、日本ジオパーク委員会が国内のジオパークの認定と世界ジオパークの候補選定を行っています（2018年９月現在、日本ジオパーク44地域、その内９地域がユネスコ世界ジオパーク）。銚子ジオパークは平成24年９月24日に日本ジオパークに認定されました。現在（平成30年度）、担当職員４名と約30人のジオガイド（案内者）が19カ所のジオサイト（貴重な地質資産やその土地の地質・地形に関係する自然や人の営みに関する見どころ）を案内し、２カ所の拠点施設を運営しています。そこでは年間約3,000人の観光客に銚子の大地と文化の魅力が紹介され，銚子観光の１つの目玉となっています。

このようなジオパークが存続していくためには行政と地域の人々、近隣大学などの教育施設が一体となってジオパークを育てていくことが重要です。中央博物館としては銚子ジオパーク講座の講師や、ジオサイトの調査などを継続的に行っています（写真２）。また、銚子は千葉県で唯一、恐竜化石発見の可能性がある場所であり、伊左治鎭司、加藤久佳らが中心となりジオパークとともに恐竜さがしを進めています。

今後も中央博物館と銚子ジオパークとの連携を、地学系以外の生物や歴史なども含め、深めていければよいと思います。

写真１　屏風ケ浦の上から東方を望む（平成26年12月）

写真２　屏風ケ浦遊歩道でのジオガイド研修
（平成28年12月銚子ジオパーク推進協議会撮影）

（生態学・環境研究科）